

環境情報の発信

富士通グループでは、様々な機会を通じて、国内外のステークホルダーの皆様との双方向コミュニケーションに努めています。

社会・環境報告書、ホームページを通じた情報開示

富士通グループでは、環境経営に関する情報を積極的に社会へ開示し、透明性を高めることを目的に、1996年から環境経営の実績およびその成果を取りまとめた環境報告書を発行しています（2003年から社会的側面も含め、社会・環境報告書として発行）。2011年に発行した「2011 富士通グループ 社会・環境報告書」は、「第15回環境コミュニケーション大賞」（主催：環境省、財団法人 地球・人間環境フォーラム）において「環境報告書部門 優秀賞（地球・人間環境フォーラム理事長賞）」を受賞しました。これは、本報告書が当社グループの環境経営の戦略や取り組み、および環境や持続可能性に関して優れた情報開示を行っていると評価されたものです。また、環境ホームページでは、社会・環境報告書に掲載している内容に加え、各取り組みの具体的内容や最新の情報を適時掲載しています。

サイトレポートの発行

富士通の工場や事業所、またグループ会社で「環境報告書」を発行しており、地域の皆様やお客様に環境への取り組みをご理解いただくことに努めています。

展示会・イベントへの出展

2011年度に出展した主な展示会・イベント

展示会名	開催地	開催時期
国内		
くまがやエコライフフェア2011	熊谷市	2011年5月
Interop Tokyo 2011	千葉市	2011年6月
びっくりエコ100選2011	京都・東京	2011年8月
東京国際環境会議2011	東京	2011年9月
CEATEC JAPAN 2011	千葉市	2011年10月
富士通レディース2011	千葉市	2011年10月
カーボン・オフセットマッチング IN 高知	高知市	2011年10月
あおもりICTクラウドフェスタ	青森市	2011年10月
エコライフやまがた2011	山形市	2011年10月
いしかわ“夢”未来博2011	金沢市	2011年10月
子ども大学かわごえ特別授業	川越市	2011年11月
エコプロダクツ2011	東京	2011年12月
川崎国際環境技術展2012	川崎市	2012年2月
カーボン・マーケットEXPO2012	東京	2012年3月

海外		
日中グリーンエキスポ2011	中国・北京	2011年6月
Green ICT Global Business Promotion 2011	タイ	2011年8月
IGEM2011	マレーシア・クアラルンプール	2011年9月
ITU TELECOM WORLD 2011	スイス・ジュネーブ	2011年10月



「エコプロダクツ2011」(東京)



「川崎国際環境技術展2012」(川崎)

展示会・イベントにおける環境配慮

富士通では、富士通フォーラムや株主総会などの展示会・イベントにおいて、グリーン電力の積極的な活用による使用電力のカーボンオフセットや、紙類の削減、環境に配慮した資材の活用など、様々な環境配慮を行っています。

2011年度は合計で約26,000kWhの「グリーン電力証書」を購入しました。

カタログの印刷における環境配慮

富士通では、カタログを印刷する際に、環境に配慮した認証紙、インキ、印刷方式を採用しています。これにより、CO₂排出量の削減や、印刷時の有害廃液の排出量削減などに貢献しています。

ステークホルダーとの対話

富士通グループは、ステークホルダーの方々とともに持続可能な社会をつくるため、積極的なコミュニケーションを図っています。

環境ダイアログの実施

幅広いステークホルダーの皆様への富士通グループの環境活動に関する認知と、双方向の対話を通じた環境活動の改善、また信頼関係を構築し社会との共創を図っていくことを目的に、環境ダイアログを実施しています。

2012年の開催実績

第1回ダイアログ：2012年3月21日 実施

【ご出席者】

- ・ 株式会社環境ビジネスエージェンシー代表取締役 鈴木敦子様
- ・ 横浜国立大学大学院環境情報研究院教授 本藤祐樹様
- ・ WWFジャパンサポーター事業室シニア・コーポレート・オフィサー 河村由美子様
- ・ 幸せ経済社会研究所所長 枝廣淳子様（ファシリテータ）

【主なご意見】

鈴木敦子様

- ・ 携帯電話を活用したタンポポ分布調査のような、市民参加型の活動をICTで支援することは重要な取り組み。
- ・ 「環境先進企業」として想起するのは、環境活動が本業の強みと直結している企業。個性を出した富士通らしい環境経営を追求していくべき。

本藤祐樹様

- ・ 地道な活動を積み重ねてきており、ひとつひとつの活動にはしっかり取り組んでいると思うが、なぜ富士通がこれらの活動に取り組んでいるのかを伝えていくべき。
- ・ 環境報告書には実施したことを全て記載するよりも、ここだけは伝えたいというポイントを強調した方が読者にとって印象深いものとなる。

河村由美子様

- ・ 環境への取り組みとして十分だと思うが、象徴的な活動を作り出すことでより印象に残りやすくなるのではないかと。
- ・ コミュニケーションの観点ではターゲットを明確にすることが重要であり、誰に何を訴えるのかを考えるべき。

第2回ダイアログ：2012年4月17日 実施

【ご出席者】

- ・ サステナ代表 マエキタミヤコ様
- ・ 東京大学大学院工学系研究科マテリアル工学専攻准教授 松野泰也様

- 一般社団法人コンサベーション・インターナショナル・ジャパン副代表兼気候変動プログラム・ディレクター 山下加夏様
- 幸せ経済社会研究所所長 枝廣淳子様（ファシリテータ）

【主なご意見】

マエキタミヤコ様

- 環境活動についてはトップランナーであると思うが、それが社会に現れてきていないことが課題。
- 生活者のニーズをすくいあげ研究することによって、よりクリエイティブな取り組みができるようになるのではないかと。

松野泰也様

- 企業の環境活動は社会貢献の観点だけでは長続きしない。富士通は本業であるソリューションを通じて環境に貢献できることが最大の強みだと思う。
- 温暖化・エネルギー問題に対してはスマートグリッドが一つの有力な解であり、取り組みを推進してほしい。

山下加夏様

- 生物多様性に関して、取引先まで含めて活動を実施している点は先進的な取り組みであると思う。
- NGOとの連携やグローバルな視点は不足しているように感じる。森林保全や生態系調査、農業支援などへのICTの活用は、発展途上国において求められている。

第3回ダイアログ：2012年6月28日 実施

【ご出席者】

- 環境監査研究会代表幹事 後藤敏彦様
- 国立環境研究所地球環境研究センター温暖化リスク評価研究室室長 江守正多様
- NPO法人川口市市民環境会議代表理事 浅羽理恵様
- 幸せ経済社会研究所所長 枝廣淳子様（ファシリテータ）

【主なご意見】

後藤敏彦様

- 企業単体を対象とした従来視点の環境活動としては完璧に近い内容。
- これから社会が求めるのはバリューチェーンでの取り組み。自社の環境経営を円滑に進める上で、どこまで把握して対策を打っていくかという視点で対応していくことが重要。

江守正多様

- 長期的なスケールで考えた場合には、「Green by ICT」は効率化によって社会の仕組みを変えていく大きな可能性があると思う。
- 富士通として社会をどう変えていきたいか、どういう企業でありたいかという大所高所のメッセージを柱として出していくべき。

浅羽理恵様

- ICTが生活のいろいろな場面で関わりがあり、環境貢献にも繋がっていることがわかった。
- 環境出前授業を通じて、ICTによる環境への貢献を伝えて欲しい。単に環境の問題を伝えるだけでなく、企業がどう貢献しているかについて社員が生の声を伝えることで、子どもが将来どのように環境に貢献できるのかをイメージできるようになる。

今後も、ダイアログを継続的に実施し、いただいたご意見を活動の改善に活かしていきます。また、社会課題についての理解を深め、具体的な協働への発展も検討していきます。

外部団体との連携

富士通グループは、国内外の外部団体への参加を通じて、環境経営の強化を図っています。

グリーンICTの推進を目指した外部団体との連携

富士通グループは、国際標準化団体をはじめとする外部団体での積極的な活動により、グリーンICTの普及を通じた地球規模の環境負荷低減への貢献を目指しています。

例えば富士通グループのソリューションによる環境負荷低減効果を評価する手法は、これまで国際的に統一されていませんでした。そのため富士通は、電気電子部門の国際標準化団体ITU-Tの「ICTと気候変動グループ（SG5 WP3）」に参加し、その取り組みの結果2012年3月にITU-T勧告「ICT製品・ネットワーク・サービスの環境影響評価手法（L.1410）」として発表されました（注1）。また国・地域レベルにおいても、日本のグリーンIT推進協議会調査分析委員長や欧州の民間イニシアティブ「ICT4EE」のWG2共同議長を務め、より実践的な環境影響評価手法の作成に貢献しています。こうした取り組みにより、ICTによるCO₂排出量削減効果を国際的な枠組みで評価することが可能となり、国内外への導入促進などにつながることを期待されています。

さらに富士通グループは、お客様に提供する製品に関しても、国際的に認められた手法でその持続可能性を評価するための活動を行っています。例えば電気電子製品全般の環境関連規定を作成するIEC TC111において、温室効果ガス排出量算定に関する国際標準を作成するWG4の日本国内委員会に所属し活動を行っています。また、AV機器やマルチメディア機器の国際標準を作成するIEC TC100においては、環境関連規格を担当するTA13の国際幹事および日本国内委員会主査を担当しています。

（注1） ICT製品・ネットワーク・サービスの環境影響評価手法の国際標準化：
[総務省のプレスリリース](#)

富士通が参加している外部団体の一例

グリーンICT関係

グリーンICTの推進や普及、標準化活動。

- [グリーンIT推進協議会](#)
- [ICT4EE](#)



気候変動関係

持続可能な低炭素社会の実現に向けた提言の実施や国際標準化の推進。

- [日本気候リーダーズ・パートナーシップ（Japan-CLP）](#)
- [ITU and Climate Change（国際電気通信連合電気通信標準化部門（ITU-T））](#)

- IEC（国際電気標準会議）
- GHGプロトコル

生物多様性関係

企業における生物多様性保全の推進。

- ビジネスと生物多様性イニシアティブ
- 企業と生物多様性イニシアティブ

製品化学物質・エコデザイン関係

含有化学物質情報を効率的に伝達する仕組みの検討。

- アーティクルマネジメント推進協議会（JAMP）
- グリーン調達調査共通化協議会（JGPSSI）
- （社）産業環境管理協会

環境社会貢献関係

環境社会貢献活動の推進。

- （財）世界自然保護基金ジャパン
- （財）日本自然保護協会
- （財）日本野鳥の会
- （財）国際緑化推進センター

環境コミュニケーション関係

環境コミュニケーション活動の推進。

- 日本環境倶楽部
- ジャパン・フォー・サステナビリティ（JFS）

環境活動全般

- 情報通信ネットワーク産業協会
- （社）電子情報技術産業協会
- （社）日本経済団体連合会

など

環境キャンペーンへの参加

環境キャンペーンへの参加を通じて、社員一人ひとりが身近なところから地球環境保全に取り組んでいます。

チャレンジ25キャンペーンに参加

国内の富士通グループでは、地球温暖化防止のための国民運動「チャレンジ25キャンペーン」に参加し、地球温暖化防止のための社員一人ひとりが省エネ活動に取り組んでいます。



6つのチャレンジ

「チャレンジ25キャンペーン」では、オフィスや家庭などにおいて実践できるCO₂排出量削減に向けた具体的な行動を「6つのチャレンジ」として提案しています。

- Challenge1：エコな生活スタイルを選択しよう
- Challenge2：省エネ製品を選択しよう
- Challenge3：自然を利用したエネルギーを選択しよう
- Challenge4：ビル・住宅のエコ化を選択しよう
- Challenge5：CO₂排出量削減につながる取り組みを応援しよう
- Challenge6：地域で取り組む温暖化防止活動に参加しよう

富士通グループでは、積極的にこれらの「6つのチャレンジ」に取り組んでいきます。

空調温度設定

冷房時は室温28℃、暖房時は室温20℃になるよう、年間を通して、空調を設定しています。

また、夏季はクールビズを実施し、お客様、パートナー様にも軽装でのご来社をお願いしています。2011年度は東日本大震災を受けた節電の実施に伴い、5月から10月まで従来のクールビズからさらなる軽装化を図るスーパークールビズを実施しました。

昼も。夜も。節電ライトダウン2011

地球温暖化防止のために環境省が2003年より行っている、全国のライトアップ施設や家庭の電気の消灯を呼び掛ける「CO₂排出量削減／ライトダウンキャンペーン」に、富士通グループは毎年参加しています。

2011年度は、特別実施日である6月22日（夏至の日）と7月7日（七夕、クールアース・デー）の両日夜8時～10時のほか、東日本大震災の影響による夏の電力不足を踏まえ、6月22日から8月31日の期間に、昼も夜も自主的ライトダウンを行う「昼も。夜も。節電ライトダウン2011」が呼び掛けられました。

富士通グループはこの活動の趣旨に賛同し、6月22日と7月7日の夜8時から10時までの2時間、広告塔のネオンサインやオフィスの照明を消灯し、また特別実施日に留まらず、継続して不必要な場所の照明や間引きなど、消灯各種の節電施策を実施し電力量の抑制に努めました。



富士通インテグレートドマイクロテクノロジー



富士通アイソテック



札幌システムラボラトリー

緑のカーテンの取り組み

富士通グループは地球温暖化防止の一環として、毎年夏季に壁面緑化で室内の温度の上昇を抑える「緑のカーテンプロジェクト」を各地の事業所にて展開しています。2011年度には富士通グループ14事業所で実施しました。

緑のカーテンとは、ゴーヤ、朝顔、へちま、ひょうたんなど、つる性の植物を建物の窓や外壁に沿って生育させることで日差しを遮り、日陰をつくることで室温の上昇を緩和するものです。社員によって植えられた苗が、日々すくすくと生長していく様子を間近で見ることができるため、社員に植物を育てる楽しさと癒しを与えてくれます。さらに収穫したゴーヤを社内で無料配布したり、社員食堂の特別メニューとして提供するなど地産地消も実践しています。

事例

富士通 川崎工場

川崎工場では、毎年、川崎市や中原区役所と連携して、ゴーヤ植栽による緑のカーテンを実施しています。2011年度は、社員ボランティア（261名）で植栽し、夏季には高さ4.5m、幅30mのビッグカーテンができました。収穫したゴーヤは社内での無料配布（130本）や社員食堂のメニュー（336食）にするなど、地産地消にも取り組みました。

活動日：2011年5月25日～2011年9月30日

活動場所：神奈川県川崎市



川崎工場の緑のカーテン

事例

富士通 明石工場

2009年から緑のカーテン活動を始めて3回目になります。従業員が多く利用する社員食堂をグリーンカーテンにすることで、見た目に涼しく、冷房効果も期待して植栽しました。カーテンの面積は125m²あり、420kgのCO₂を吸収できます。

活動日：2011年6月1日～2011年9月30日

活動場所：兵庫県明石市 明石工場内



明石工場の緑のカーテン

事例

富士通 大分システムラボラトリ

大分システムラボラトリでは2011年5月から9月まで、当ビル入居の緑のサポーターの皆様により、「緑のトンネルプロジェクト」を実施しました。

2011年度はゴーヤ、日本アサガオを植栽しました。緑のトンネルは日陰・蒸散作用による省エネに加え、トンネル内の癒し効果に特筆すべきものがあります。収穫した大量のゴーヤは社員に提供、収穫した日本アサガオの種は、アサガオバンク活動として各地へ提供し、緑のカーテンの輪を拡大していきます。

活動日：2011年5月23日～2011年9月中旬

活動場所：大分県大分市



大分システムラボラトリの緑のカーテン

外部表彰の受賞、外部からの評価

社会の持続可能な発展を目指した富士通グループの様々な取り組みは、多方面から高い評価を受けています。

2012年6月現在

主な外部表彰、外部評価（富士通グループ、社員）

内容	年月	主催	対象
「21世紀の偉業賞（21st Century Achievement Award）」環境部門	2012年6月	Computerworld	東日本大震災における富士通グループの対応
「SEGES（シージェス）（社会・環境・貢献緑地評価システム）」Superlative Stage（スパーラティブ・ステージ）の認定取得	2012年4月	財団法人都市緑化機構	富士通沼津工場の緑化活動
「第15回環境コミュニケーション大賞」環境報告書部門 優秀賞	2012年2月	環境省、財団法人地球・人間環境フォーラム	2011 富士通グループ 社会・環境報告書
「かわさき環境ショーウィンドウ大賞」入賞	2012年2月	川崎市	環境リファレンスモデルの導入
「低CO ₂ 川崎パイロットブランド'11」選定	2012年2月	川崎市	企業向けデスクトップパソコン ESPRIMO D570/B および対人センサー搭載ECOプラスディスプレイ VL-178SRL
「第2回かながわ地球温暖化対策大賞」温室効果ガス削減技術開発部門	2012年2月	神奈川県	省電力PCサーバの開発
「第2回かながわ地球温暖化対策大賞」温室効果ガス削減実績部門	2012年2月	神奈川県	富士通エフ・アイ・ピー株式会社横浜データセンターの建設
第15回「環境経営度調査」10位	2012年1月	日本経済新聞社	環境経営への取り組み
「バンクシア環境賞（大組織部門）」	2011年11月	バンクシア環境財団	富士通オーストラリア・ニュージーランド（FANZ）の、長年にわたる持続可能性への貢献
グリーンIT ベンダトップ12社 1位	2011年10月	Computerworld	グリーンITベンダとしてICT機器のエネルギー消費低減やICT機器への低炭素・省エネ技術の導入
Newsweek Green Rankings 2011 13位	2011年10月	Newsweek	各企業の環境影響、環境マネジメント、そして情報公開についての格付け
「第2回いきものにぎわい企業活動コンテスト」審査員特別賞	2011年10月	いきものにぎわい企業活動コンテスト実行委員会	富士通グループ・マレーシア エコ・フォレストパーク（マレーシア・ボルネオ島における生物多様性保全を目的とした熱帯雨林再生活動）
グリーンITアワード2011「ITによる社会の省エネ（by IT）」部門の審査員特別賞	2011年10月	グリーンIT推進協議会	環境貢献試算Webツールの構築と省エネ社会実現に向けた全社活動
平成22年度「環境goo大賞」企業部門奨励賞	2011年5月	NTTレゾナント株式会社	富士通の環境活動（環境webサイト）